

経営目標 教育目標		【学校経営目標】 全教職員が、主体的組織的に学校教育目標の達成に向かう学校づくり				めざす 生徒像		社会に貢献できる資質能力を身につけた生徒 ・「夢・実現」に向けて主体的に学び挑戦する生徒 ・郷土を愛し、世界に目を向ける生徒 ・神石高原中学校生徒の心得が実践できる生徒								
評価計画						自己評価						担当者	学校関係者評価			
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成の方策 (具体的な取組内容)	評価項目【指標・目標】	時期	達成率	評価	達成状況	改善方策	イ		ロ	ハ	コメント	
確かな学力	主体的な学習を実現し、学力の向上を図る (自ら学ぶか しこい子)	生徒の主体的な学習を促す授業を展開し、学力向上を図る。	1	・基礎・基本の定着、課題設定と振り返りの充実を図る。 ・自学自習ノートの活用と学習サイクルの定着を図る。	①標準学力調査において結果を出している【同質集団における標準学力調査の全国平均を超える(全国平均を超えた教科は、全国平均の＋3P以上)である教科15教科中8教科以上】 ②自学自習ノートの提出率90%以上【効果的な活用ができた生徒の割合60%以上】	中間	①75% ②100%	①C ②A	①標準学力調査において、全国平均を超えた教科は9教科だったが、そのうち、昨年度全国平均を超えた教科が今年度全国平均の＋3P以上であった教科は2教科だった。6/8(75%) ②自学自習ノートの効果的な活用 1年17人、2年12人、3年11人 全体人数 40/59(67.8%)→100%達成	効果的に活用できているノートや、効果的な変更が見られたノートを教員が選び、生徒に紹介する。また、一人でも何をすればよいかわ迷い適切に活用できていない生徒にはプリントを貼るなどの個別の対応をする。	教務	○			○全国平均を超えた教科は9/15で、3学年においては全教科で全国平均を上回るなど成果が出ています。改善方策による更なる取組をお願いします。 ○中間期の改善方策が実を結んでいると考えます。今後も自学自習ノートの活用方法、優良活用事例を紹介するなど、継続した取組をお願いします。 ○「なぜ学習することが必要なのか」を生徒自身が理解すれば、「誰かにいわれてなくても自らするもの」に変わると思います。	
		多様な機会を設定・推奨し、自己決定させることで生徒のチャレンジ精神を養う。		・英検・数検・漢検への挑戦機会を提供する。 ・幅広い挑戦機会を創出し、参加についての自己決定場面をつくる。	①カリキュラムを工夫して全員受験の機会を設定する【英検、数検、漢検の受験者の割合60%以上】 ②各種検定に挑戦し、結果を出している【3年生の中で3級以上を取得している生徒の割合30%以上】	最終	87.5%	B	①昨年度全国平均を超えた教科で全国比＋3Pの達成は3教科、今年度新たに全国比を超えた教科3教科 6/15→75%達成 ※9/15の教科で全国平均を超えており、3学年は5教科全てにおいて全国平均を上回った。 ②自学自習ノートの効果的な活用 1年生16人、2年11人、3年17人 全体人数44/59(74.6%)→100%達成 達成率(75+100)÷2=87.5%	標準学力調査の結果分析を行い、今後の取組を具体化する。また、全教職員で生徒の課題や効果的な指導方法の工夫などを共有し、学力向上のための共通した方策を教育研究に取り入れ、実施する。						
豊かな心	社会に貢献できる生徒を育成する (やさしくあ たたかい子)	地域に貢献できる生徒を育成する。	2	・地域教材の活用や地域人材を招いての学習等、「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」学習を実践する。	①地域のことについて学ぶことを肯定的に捉えている【意識調査における、「地域のことが好き」「地域のために何かしたい」「地域のことをもっと知りたい」の各項目の肯定的評価85%以上】	中間	96.8%	B	①意識調査における、「地域のことが好き」92%→100%達成「地域のために何かしたい」83%→97.6%達成「地域のことをもっと知りたい」79%→92.9%達成 達成率(100+97.6+92.9)÷3=96.8%	総合的な学習の時間でのゲストティーチャー招致や地域体験活動、地域ふれあい行事等地域に出ていく行事、地域教材を使用する道徳を中心に、教育活動全体で、「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」「地域のことを考える」を実践する。	教務	○			○「地域のために何かしたい」については、中間期から最終期に10%下がったことは気になるものの、中学生で地域のためにということはそこまで考えないかとも思うので、72%もいるということは肯定的にとらえられるかと思います。 ○今後は、地域貢献とまでせず、地域における自分の存在(自己肯定)について問いかけるのも良いのではと考えます。 ○各地域での行事への参画は、喜ばれています。	
		ボランティア活動を推奨し、貢献機会をつくり、意欲を高める。			・生徒会活動を中心としたボランティア活動を実行する。 【意識調査における、「将来、地域のために何か貢献しようと思う」の肯定的評価80%以上】	最終	86.3%	B	①意識調査における、「地域のことが好き」89%→100%達成「地域のために何かしたい」72%→84.7%達成「地域のことをもっと知りたい」63%→74.1%達成 達成率(100+84.7+74.1)÷3=86.3%	1学期に比べて、2学期は地域に出ていく行事が少なかったこともあり、数値が下がった。行事に限らず、教育活動全体で地域を意識した学びを進めていくことが必要である。						
							中間	88.7%	B	①3回企画し、2回以上参加した生徒45人(76.2%)→95.0%達成 ②6月アンケート結果66%→82.5%達成 達成率(95.0+82.5)÷2=88.7%	①ボランティア活動に参加しやすい企画を検討し、活動方法・呼びかけにも工夫をする。 ②総合的な学習の時間で全学年地域について教材化し、体験活動を積極的に取り入れ評価する。	生指	○			○ボランティア活動や地域貢献の意識(意義)を理解することから取り組んではどうか。そのうえで自分では何が出来るか、何をしたいかを自ら考えて行動するように導をお願いします。 ○ボランティア活動の参加者が増えていることや生徒会が主体性を持ち企画していることは良いことです。次のステップアップとして、もっと地域と連携して良いのではないかと考えます。
							最終	83.2%	B	①5回企画し、2回以上参加した生徒55人(93.2%)→100%達成 ②11月アンケート結果53%→66.3%達成 達成率(100+66.3)÷2=83.2%	①活動方法・呼びかけにも工夫をした結果、参加者数もが増えた。 ②地域のことをどのように思っているのか、なぜなのかを知る必要がある。					
健やかな体	心と体の成長を促す健康教育を推進する (しなやかで つよい子)	他者との違いを認め、共に歩む集団を育成する。	3	・学期に一回以上のライフスキルトレーニングを実施する。 ・異年齢集団で行事等を成功させる体験を持たせる。 ・スクールカウンセラーによる全員面談の実施。	①自己肯定感が向上している【意識調査における、「自分にはよいところがあります」81%→100%達成「自分のよさはまわりの人から認められていると思います」74%→100%達成 達成率(100+100)÷2=100%	中間	100.0%	A	①1学期生徒アンケート「自分にはよいところがあります」81%→100%達成「自分のよさはまわりの人から認められていると思います」74%→100%達成 達成率(100+100)÷2=100%	文化祭などの行事に主体的に関わらせること、縦割りでの生徒の関りを意図的に創ることで100%の達成率を維持したい。	生指	○			○保護者や地域の人からいろいろな場面を見てもらう機会が増えたことで生徒の意識も変わってきていると思うので、引き続きの取組をお願いします。 ○生徒の自己肯定感が高いことは数値だけでなく授業に参加しても感じるが、「何もうりたくない」と思っている生徒が多いのは何故でしょうか。 ○新しいことへチャレンジする精神と失敗を前向きに捉える精神を両立させて、自分を大切にしていほしいです。 ○子どもたちのために親同士でも話し、学び合う時間を作ってほしいです。	
		様々な運動機会を創出し、体力づくりを進める。			・体育的行事づくり、運動部活動(体力)強化週間等を通して、運動意欲と体力の向上を図る。	①運動意欲が向上している【意識調査における、運動しようとする意欲のある生徒の割合90%以上】 ②体力が向上している 体力テストの本校の目標(各学年2種目) ・男子1500m 全国平均＋15秒以内 ・女子1000m 全国平均＋25秒以内 【上記目標を全学年で3種目/6種目以上達成】	最終	100.0%	A	①2学期生徒アンケート「自分にはよいところがあります」75%→100%達成「自分のよさはまわりの人から認められていると思います」79%→100%達成 達成率(100+100)÷2=100%						年間通して達成できているので、生徒主体の行事や取組を継続し活躍の場を多く設定していきたい。
							中間	83.3%	B	①運動しようとする意欲(94%)→100%達成 ②・男子1500m 全国平均＋15秒 ・女子1000m 全国平均＋25秒 ・目標達成 2種目/6種目(33.3%)→66.6%達成 達成率(100+66.6)÷2=83.3%	一時の体力評価だけでなく、運動習慣の定着と運動意欲の向上を図る。 休日などの日々の運動習慣の定着を図る。 体育での運動量を多くする。	体育	○			○普段の生活のなかで身に付けられていない部分(体幹・基礎体力)で、これまで同様神石高原町の子どもの一番の課題ではないかと思っています。 ○学校における取組も大切ですが、身体の基礎的な部分は毎日続けることが大切だと考えますので、家庭で出来ることなどを示して取り組んでいただくことも必要と考えます。 ○各協働支援センターが開催している運動系の教室に参加することを促すのはどうでしょうか。 ○ゲームをすることやSNSで推しを見ることで、メンタルを落ち着かせているという生徒もいるためスマホを触る時間を否定しすぎず、メンタルを安定させるという方向でマインドフルネスやストレッチなどを促していくと良いかもしれません。 ○生徒たちが楽しく続けられるような仕掛けで、チーム対抗で競い合いながらも高めあっているランニングタイムのような取り組みが効果的ではないかと思います。
							最終	100.0%	A	①運動しようとする意欲(97%)→100%達成 ②・男子1500m 全国平均＋15秒 ・女子1000m 全国平均＋25秒 ・目標達成 3種目/6種目(50%)→100%達成 達成率(100+100)÷2=100% ※11月の授業で12年生対象に再検証した結果、(3年男子、女子1年は達成。)長距離走で2年生女子は全国平均以上でした。	継続した持久力向上の取組により運動の意欲向上をはかり、体力向上に取り組む。					
働き方	教職員のゆとりとやりがいを高める	業務の効率化により超過勤務時間を削減する。	4	・研修日、定時退校日の設定や、分掌業務等のスリム化を図り業務改善を進める。	①超過勤務時間が削減できている【職場全体の年間平均超過勤務時間昨年度比5%削減】 ②定時退校が実現できている【全員が定時退校できる日年間30日以上】	中間	23.0%	D	①4～9月：15%増→達成に至っていない。 ②4～9月：14回/30→46.0%達成 達成率(0+46.0)÷2=23.0%	昨年度と違い、1学期に行事が増えたため業務時間が増えたと考えられる。現在、少しずつではあるが改善がみられている。先を見据えた計画や準備ができるように業務改善に努める。	総務	○			○超過勤務、定時退校とも増加傾向にあり今後の改善が必要と思います。 ○教職員がいないと思う仕事を洗い出してもらって、運営協議会から教育委員会へ申し出を送ることも挑戦してみたい。 ○やりがいや満足度を考えると、どうしても時間はかかるかと思えます。ある程度の割り切りも必要では。	
		最終			31.5%	D	①4～1月：19%増→達成に至っていない。 ②4～1月：19回/30→63%達成 達成率(0+63)÷2=31.5%	教職員の定時退校の意識が少し高まったが、業務が減るような取組まで至らなかった。今後も、業務を見直すなど、業務改善に努める。								
							中間	87.0%	B	①仕事に対するやりがい11人/12(91.6%)→100%達成 ②相談できる11人/12(91.6%) 人間関係の構築7人/12(58.3%) 職場の雰囲気6人/12(50.0%) (平均66.6%)→74.0%達成 達成率(100+74)÷2=87.0%	仕事にやりがいを感じている教職員がほとんどである。半分近くは、人間関係や職場の雰囲気をよくないと思われている。教職員が安心して仕事ができる職場環境になるように、業務改善を進めていく。	総務	○			○「仕事に対するやりがい」の数値が高いことはいいことであるしありがたいことです。その部分を今後も持ち続けてもらうために、職場の雰囲気づくりをお願いします。 ○中間期から最終期で「人間関係の構築」「職場の雰囲気」の数値も上がり人数も増えているので、継続して取組をお願いします。 ○情報が共有され、相談しやすい雰囲気になり、学校がよりよい環境になることを願います。
							最終	87.0%	B	①仕事に対するやりがい12人/13(92.3%)→100%達成 ②相談できる10人/13(76.9%) 人間関係の構築9人/13(69.2%) 職場の雰囲気7人/13(53.8%) (平均66.6%)→74.0%達成 達成率(100+74.0)÷2=87.0%	仕事にやりがいを持って取り組んでいることが、授業や行事などの生徒の姿に反映されている。今後は、ストレスをあまり溜めないような職場環境を築くようにする。					